

使用砂土骨遺

人道上、許されない

収集ボランティア3省に要請

沖縄県名護市辺野古の米軍新基地建設での埋め立てに沖縄戦戦没者の遺骨が眠る土砂を使用する計画の撤回を求め、遺骨収集ボランティアらが14日、国会内で、厚労・外務・防衛3省に要請を行い、3万3千人分の署名を手渡しました。

ボランティア「ガマフヤー」の具志堅隆松代表が参加。防衛省に対し、「皆さんの先輩である日本兵士の骨が含まれるこの土砂を、アメリカ軍のための新基地建設に使うことは、人道上許されることではなく、国民・戦没者への裏切りだ」と語気を強め、土砂使用計画の撤回を訴えました。

また、具志堅氏は、自民党の総裁選候補者に公開質問状を出す予定があることも表明しました。

オンラインで福岡から参加した遺族の女性は、「父の遺骨を母の隣に納骨したい。父の遺骨の混じる土砂を埋め立てに使わないこと



を約束してほしい」と迫りました。

これらの訴えに対し防衛省は、計画の撤回

遺骨が混ざった沖縄南部の土砂を基地建設に使わないよう求める署名を防衛省に提出する具志堅隆松「ガマフヤー」代表（中央）＝14日、国会内

に言明せず、工事の受注者が決定することだとして、責任回避の姿勢に固執しました。

韓国入戦戦没者の遺骨収集が後回しにされている問題で、韓国から参加した韓国太平洋戦争被害者補償推進協議会の女性は、「厚労省は30年前からできないこの言い訳を繰り返している。戦争を起した日本は責任をもって、遺骨収集を行うべきだ」と怒りを込めて訴えました。

日本共産党からは、井上哲士参院議員と清水忠史衆院議員が参加しました。